

取組名	海上保安庁職員による着衣水泳指導		
特徴	海上保安庁職員を講師として招聘し、海浜事故の防止に向けた、安全指導講習及び着衣水泳指導を行った。		
学校名	柳井市立大畠小学校 柳井市立大畠中学校	日時	平成25年7月12日(金)

### 1 ねらい

夏休み中におけるマリンレジャー事故防止に向け、海上保安庁職員による講話、着衣水泳指導を行うことで、海での安全に対する正しい知識と万が一落水した際の正しい対処法を身に付けさせる。

### 2 概要

大畠小学校6年生、大畠中学校1年生を対象に、大畠中学校プールで実施した。柳井海上保安署から来られた3名の職員から、マリンレジャー中に起こる事故や離岸流などの海の特性、万が一海に落ちた際の正しい対処や周囲の人の対応などの講話をいただいた。

その後、次の順で着衣水泳を行った。

- (1) 水中歩行を行い、水着のときとは違う感覚を体験する。
- (2) 浮くものを使わない状態で背浮きを行う。
- (3) ペットボトルを使って背浮きを行い、浮きやすさの違いを体験する。
- (4) 救命胴衣の正しい着用法を学び、着用した状態で浮きやすさを体験する。
- (5) おぼれている人に対する救助の仕方を学び、実際に行う。
  - ・大声で助けを求め、おぼれている人から目を離さない。
  - ・海上保安署118番、消防署119番へ連絡する。
  - ・ペットボトルや木材など、浮きやすいものを近くに投げる。可能であれば、ロープを結び、ロープで引っ張りながら助ける。



### 3 成果と今後に向けて

海岸に面している地域であることから、マリンレジャーを楽しむ児童生徒が多い。日頃から親しんでいる海の危険性や落水した際の対処法など、正しい知識を身に付けさせることができた。

実際に着衣水泳を行うことで、水着での水泳とは違う感覚であることや浮き具があることの重要性を体験することができた。また、自分たちにできる正しい救助方法についても学ぶことができた。今後、保護者、地域と連携した取組を行うことで、地域全体で海の安全に対する意識を高めたい。

取組名	不審者対応に係る避難訓練と防犯教室		
特徴	知的障害のある小・中学生ばかりが通う本分校では、夏休み中における防犯意識を育てるために、屋外で遊んでいる休み時間中に予告もなく不審者が侵入するブラインド方式の避難訓練を実施し、併せてKYTや演習を生かした防犯教室を展開していく。		
学校名	山陽小野田市立赤崎小学校 山陽小野田市立竜王中学校松原分校	日時	平成25年7月11日(木)

## 1 ねらい

### (1) 児童生徒の立場から

・校地内での不審者の侵入や街角での見知らぬ人からの接近に対し、自らの確に判断し安全な行動をとりながら自分の身を守る手段を学ぶとともに、夏休み中における防犯意識を育てる。

### (2) 教職員の立場から

・校地内に不審者と思われる人物が侵入した場合に、児童生徒の安全を守るための的確な判断や緊急対応の仕方を身に付ける。

## 2 概要

### (1) 計画の概要

- ・侵入時間は中間休み中
- ・防犯教室の講師と不審者役は警察署員(山陽小野田警察署)
- ・児童生徒には予告なし
- ・避難場所は校舎内

### (2) 活動の実際

時間	内容(場所)	活動の実際
10:20	避難訓練 (グラウンド・校庭)	・傘を所持した見知らぬ人(警察署員)が正門から徒歩で入り、児童生徒が遊んでいるグラウンドへ侵入。 ・グラウンドに出ていた教職員が、侵入者に対し訪問理由の聞き出しや無断侵入の警告。 ・不審者と判断した時点で教職員の誘導による避難開始。校舎内の教職員への連絡。110番通報。
10:30		・複数の教職員が防犯具で校舎内への侵入を阻止。 ・パトロール中の警察署員による取り押さえ。
10:40	防犯教室 (2階ホール)	・ペープサートで声かけ事案や危険場所などに関するKYT(危険予測学習)。 ・DVD「車中からの声かけ事案」の視聴。
11:20		・声かけ事案に関する演習。
11:30	振り返り 学習(校庭)	・各学級で振り返りシートを記入。
11:50	受指導(校庭)	・警察署員から教職員(教頭・生徒指導担当)に対する指導助言。

防犯具による侵入阻止



ペープサートを使ったKYT



車中からの声かけ事案の演習



## 3 成果と今後に向けて

### (1) 児童生徒の振り返りシート(小学部2組、中学部1組・2組の記入)から

先生の指示をよく聞いて行動できた者は、19人中16人(84%)、落ち着いて静かに避難できた者は、19人中13人(68%)の結果となった。どちらも全くできなかった児童生徒はいなかった。予告なく突然の不審者の侵入でも、小学部1組の低学年児童を含め、全員が落ち着いた行動をとることができた。

夏休みに向けて、児童生徒たちは「かならずお父さんとこうどうする。」「知らない人の車にのらない。」「話しかけられてもことわってにげたい。」などと記し、防犯に対する心構えが身に付いたようである。

### (2) 教職員(10人)の自己評価から

不審者への対応(満足3/10 普通7/10 要改善0/10)、教職員同士の連絡(満足2/10 普通6/10 要改善2/10)、避難誘導(満足4/10 普通4/10 要改善2/10)の結果となった。

突然の侵入に驚き、一瞬固まって指示を出しても身動きしなかった児童生徒の様子が確認でき、その子らへの対応が課題となった。また、グラウンドでの不審者侵入の阻止の難しさや刺す股の効力の限界を実感することができた。

取組名	地震が発生した場合の避難訓練及び危険予測学習		
特徴	隣接する小学校と一緒に、KYT資料をもとにした危険予測学習や避難訓練を行い、危機意識や安全意識を高め、自分の命を自分で守る行動が取れるようにする。		
学校名	周南市立鼓南小学校 周南市立鼓南中学校	日時	平成25年5月31日(金)

## 1 ねらい

- (1) 緊急地震速報を受信した場合を想定した避難訓練を通して、地震発生時に、素早く自分の命を守る行動ができる。
- (2) KYT資料をもとにした危険予測学習を行うことで、いろいろな場所で地震が発生したときに、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高める。

## 2 概要

### 危険予測学習(於:体育館)

- (1) 学習・訓練のねらいを知らせる。
- (2) 2つの場面「商店街」「体育館」のイラストを使って、以下の学習展開で行う。
  - ①場面の読み取り
  - ②危険の予測
  - ③回避方法の考察
  - ④まとめ



### 避難訓練(於:グラウンド)

- (1) 「緊急地震速報」が発信されたことを緊急連絡(放送)する。【小・中同時】
- (2) 児童生徒は、教職員の指示で直ちに机の下に隠れる。
- (3) 揺れがおさまったことを告げ、避難行動を開始するよう放送する。
- (4) 教職員の指示でグラウンドに避難する。【小・中同時】
- (5) 人員点呼を行い、けが人等の有無を確認して報告する。
- (6) 指導・講評(スクールガード・リーダー、校長)



## 3 成果と今後に向けて

### ○ 成果

小中合同の避難訓練等を実施することで、小学生は模範となる中学生の姿を見ることができ、中学生は、小学生の行動を支えようとする意識が生まれてきた。

### ○ 課題

本校は高台にあるが、周りに工場の配管等が存在し地震による二次被害も考えられる。そうしたことも想定しながら、訓練を実施していきたい。



取 組 名	全校生徒及び教職員参加による心肺蘇生法講習会（AED講習）		
特 徴	日赤の指導者により、全生徒が直に心肺蘇生法（AEDの使用法）を実習できる。		
学 校 名	美祢市立於福中学校	日時	平成25年6月5日（水）

1 **ねらい**  
 生徒自らが自分の命を守ると共に、主体的に行動し、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成する。

## 2 概 要

6月5日（水）に心肺蘇生法講習会（AED講習）を実施した。講師は、日本赤十字社山口県支部指導員の永澤貴博氏である。永澤氏には、昨年度も本校の学校保健委員会で、東日本大震災におけるボランティア活動等の話をいただいている。今回の講習では、生徒と教職員が6班に分かれ、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用法について実習し、指導を受けた。

特に今年度は、司会・進行を生徒会JRC委員が務め、「気づき・考え・実行する」というJRC精神のもと、生徒会主体の進行で進めたことで、活気のある講習会となった。

### ～生徒の感想より～

◆ビデオを見て実際にやりましたが、とても難しかったです。AEDの扱い方や倒れている人の状態をすぐに判断することは大変だと思いました。

◆胸骨圧迫が難しかったです。テレビですごく汗をかいてやっているところをよく見るけど、やってみて汗をかく理由がよくわかりました。



◆見ていると簡単そうに見えるけど、実際やってみるととても難しく、できる人は何回も練習を積み重ねているんだなと思いました。講習を受けて良かったです。

◆AEDを初めて使いました。使い方が分かっててもAEDが置いてある場所を分かっていないと意味がないので、店に行ったときなど、AEDが置いてある場所を確かめておきたいです。

◆ただ想像したり他人がやっているのを見たりするよりも、自分で実際にした方がよく覚えることができました。

◆実際にやってみると意外と力が必要で、救急車が来るまで続けるのは大変だと思いました。

◆永澤さんのお話で印象に残ったのは「いくら意識がなくても人道の精神は忘れてはいけない」という言葉です。そのようなことがあれば、できるだけ意識したいです。

◆もし自分の目の前で誰か倒れていたら今回のような行動がしっかりとできればいいなと思います。できそうになかったら、119番通報やAEDを持って来るなど自分にできることをしたいです。

◆僕はまだ、人が倒れているところに遭遇したことはありません。そのようなことがあった場合は、今回体験したことを活かして、率先して人を助けたいと思います。



## 3 成果と今後に向けて

生徒の感想にもあるように、「もし自分の目の前で誰か倒れていたら～」という場面を想定して、その時の自分の『役割』『責任』を自覚し、どう行動すればよいか班全員で確認・共有できたことは大きな成果と捉えている。それは、教職員も同様である。

今後、生徒も教職員もいつ何時、AEDが必要となる場面に出くわすかわからない。その時に、自信をもって自分が行動できるよう、いろんな場面を想定し、訓練を積み重ねて実践力を培っていくことが重要である。

取組名	教職員が常に危機意識をもった防犯教育研修		
特徴	防犯教育研修会の復伝を兼ねた、管理職（校長）による研修会		
学校名	下関市立名陵中学校	日時	平成25年8月28日（水）

## 1 ねらい

山口県では、学校管理下の子どもたちの負傷件数は減少傾向にあるが、命が脅かされる事件・事故は少なからず発生している。学校現場としてもこれらに対応する取組の一層の充実が求められている。我々教職員は、いつ何が起きても冷静に対応しなければならない。8月21日に山口県庁で実施された防犯教育研修会の復伝を兼ねて、管理職（校長）による教職員の安全意識の向上と危機対応能力の強化を目指した研修を実施した。

## 2 概要

※防犯教育研修会復伝（8月21日 山口県庁職員ホール）

- (1) 大阪教育大学付属池田小学校の事件（児童8名死亡、児童教員13名重傷）
  - 犯人が事件を起こす前に教員に会っていた。
  - 門を閉めておくという通達を守っていなかった。
  - 児童が運ばれた病院を学校側は知らなかった。
- (2) ハインリッヒの法則＝「1：29：300」
  - 重大災害が1件発生する場合、その陰に29件の軽傷の災害が起きており、さらに300件のヒヤリハットが発生している。→いかに早く対策を講じるか
- (3) ハインリッヒのドミノ理論
  - 社会的・家庭的な問題→個人的な問題→危険な行動→事故→災害
  - 途中のドミノを倒さないこと
- (4) 犠牲者批判を防ぐ
  - 安全教育、安全管理、組織活動
  - 気をつけなかった自分が悪い×
  - ソーシャルサポートへ
  - 自己肯定感があると主体的な安全推進者となる。
- (5) 災害の原因で偶然は1%
- (6) 安全推進に「効率性」と「見返り」はない。
- (7) 安全安心地域になるための貢献
  - マナーは総合芸術（表情、態度、身だしなみ、挨拶、言葉遣い）
- (8) さす股の実技研修  
（さす股を利用した教職員の不審者対応の実技訓練の様子）



- さす股等防犯器具の不審者への使用は、制圧が目的ではなく、警察が到着するまでの時間を稼ぐことが目的である。
- 不審者への対応は必ず複数の教職員で行い、自己の安全を確保する。
- 凶器を持った不審者へは、数的な優位を保ちながら、基本技術を用いて対応する。

## 3 成果と今後に向けて

前半は、池田小学校の事例を参考にしながら、注意すべき点、守らなければいけない点を中心に進められた。後半は、実際に不審者に遭遇した場合に、さす股を使用しての実技指導を行い、緊張感をもつ中に危機意識の高揚が図られた。

今後も、安全・安心な学校づくりのために、学校安全3領域（防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全（防災））の研修を進めていきたいと考えている。

取組名	学校保健委員会の取組		
特徴	全校生徒、保護者、教職員を対象に心肺蘇生法やAEDの実技講習を実施する。		
学校名	下関市立長成中学校	日時	平成25年7月9日(火)

### 1 ねらい

- (1) 応急手当の意義や目的について正しく理解し、その重要性を認識する。
- (2) 心肺蘇生法やAEDの具体的な方法を、専門家の指導により習得する。

### 2 概要

○学校保健委員会

日時 平成25年7月9日(火) 14:00~15:50

会場 下関市立長成中学校 体育館

参加者 全校生徒 265名 保護者 7名 教職員 22名 計 294名

講師 国立病院機構 関門医療センター

救急看護認定看護師 柴野 創 様  
福本 知子 様 他 8名

- 内容
- ① 応急手当の意義や手順についての説明
  - ② 実習
    - ・生徒は10グループに分れる。
    - ・10ブースに各1名の指導者を配置する。
    - ・心臓マッサージとAEDをダミー人形を用いて実施する。
  - ③ 救急看護認定看護師の方によるデモンストレーション



心臓マッサージ実習



AED実習



デモンストレーション



デモンストレーション

### 3 成果と今後に向けて

生徒たちは、公共の場所などに設置されているAEDをよく目にしてはいるものの、どのようなとき、どうやって使うのかをほとんど知らない。また、2学年の保健体育科の授業で応急手当について学習するが、実習は難しい。今回の専門家による実践的指導では、生徒たちは皆、真剣に取り組む、当初のねらいを達成することができた。しかし、手順の正確な理解には反復して行う必要があり、継続的に取り組むことが今後の課題である。



取組名	平成25年度交通安全指導「自転車点検及び自転車安全通行学習」		
特徴	本校では、7割近い生徒が自転車通学をしており、また、ほぼ全員が日常生活で自転車を利用している。こうした状況から、全校生徒を対象とする交通安全学習を実施している。		
学校名	防府市立華西中学校	日時	平成25年4月10日（水）

## 1 ねらい

通学や日常生活において使用する自転車の整備・点検や、道路通行の方法を学ぶ活動を通して、自己の安全と他の人々の安全に配慮することの重要性を認識させ、交通ルールを遵守する態度を育てる。

## 2 概要

### (1) 自転車安全点検

- ① 記名の有無・鍵の確認
- ② ステッカー・防犯登録証の確認
- ③ ハンドル・荷台・ペダル・サドルの点検
- ④ ライト・反射器・ベルの点検
- ⑤ チェーン・タイヤの点検



### (2) 自転車走行技能実技講習

- ① ヘルメットの点検
- ② 発進・直進の仕方
- ③ 交差点での直進・右左折の仕方
- ④ 危険物の回避の仕方
- ⑤ 横断歩道の通行の仕方
- ⑥ 停止の仕方



## 3 成果と今後に向けて

- (1) 全校体制で、全教職員が役割分担をして、交通安全への意識高揚を図る活動である。自転車の整備不良についての注意喚起、自転車走行技能や道路通行のルールに重点を置いて指導している。その結果、一定の成果は上がっていると思うが、通行ルールでは並進の違反が多い。また、大きな事故にはなっていないが、車との接触事故が1件起きているので、指導の強化が必要であると考えている。
- (2) 上記のことをふまえ、2学期には、事故を回避することや交通安全に対する意識を高めるために、山口県警察本部の交通部による交通移動教室を実施した。

取組名	ボク・ワタシミライ（防災学習）～3. 11世代からの未来予想図～		
特徴	基礎学習の後、東日本大震災で被災地となった宮城県東松島市にある石巻西高等学校を訪れ、「シンサイミライ学校交流会」に参加する。そこでの学習の成果を生かした地域の在り方を模索する。		
学校名	光市立浅江中学校	日時	平成25年6月14日（金）～

## 1 ねらい

本取組は、「明るい未来づくり」、「充実した人生設計」についての学習である。最初に「防災」について学習し、自分を守ること（自助）と他者を意識した考えや行動（共助）について知見を深めていく。その後で、自分の未来だけでなく、「助ける立場」として自分が周囲に貢献できることや、未来のまちづくりや地域ネットワーク等について、理想とする未来予想図を設計する。そこで、本学習のねらいを次の3つとする。

- ① 災害についての正しい知識と、防災の在り方について理解を深める。
- ② 災害時における危険について学習し、日常的な備えや、状況に応じて的確な判断や自らの安全を確保する行動ができるようにする。
- ③ 災害時や災害後に、進んで他の人々や集団・地域安全に役立つことができるようにする。  
（キャリア教育：【人間関係形成・社会形成能力】 【課題対応能力】）

## 2 概要

### (1) 単元構成計画

- 1) オリエンテーション
- 2) 講話 「専門家から学ぶ」
- 3) 防災学習（基礎的・基本的事項）
  - ①震災の歴史
  - ②防災・減災
  - ③被災時・被災後の生活
  - ④発表会「東日本大震災から学ぶ」
- 4) 防災交流事業  
「シンサイミライ学校交流会」（8/8～8/10宮城県立石巻西高等学校）
- 5) 学習のまとめ（個人レポート作成）
- 6) 情報発信
  - ①文化祭、教育フォーラム、浅江地区コミュニティ協議会運営委員会
  - ②被災地支援協力、地域貢献活動への参加等

### (2) 学習の実際

#### 1) 防災交流事業

「光市防災交流事業」に6名の生徒を選出し、8/8～8/10に東日本大震災で被災地となった宮城県東松島市にある石巻西高等学校を訪れ、「シンサイミライ学校交流会」に参加した。この交流会では、地元の宮城県の他、兵庫、和歌山、静岡、東京から集まった約120名の中学生・高校生とともに、防災についての研修を行った。

初日は、仮設住宅を訪れ、仮設住宅会長の小野竹一さんから震災当日から今までの出来事を教えていただいた。また、石巻西高等学校の齋藤校長から「避難所生活」や「震災後の被災者の生活」についての講話があった。2日目は、午前中に被災地である長面湾や大川小学

「シンサイミライ学校交流会」	
8月8日（木）	
15:30～	研修Ⅰ 講話：「今を生きる」
19:00～	研修Ⅱ 講話：「災害と向きあう」
8月9日（金）	
9:00～	研修Ⅲ 長面湾・大川小学校視察
14:00～	研修Ⅳ ①自然を科学する 波の実験・津波のしくみ ②ワークショップ
8月10日（土）	
9:00～	研修Ⅴ 鳴瀬第二中学校視察



校を訪問し、津波の脅威や爪痕を視察した。午後からは、「波の実験」や「津波のしくみ」などを学んだり、ワークショップ形式で壁新聞を作成したりした。3日目は、津波の被害を受けながらも犠牲者を出さずにすんだ鳴瀬第二中学校を視察した。



研修 I



研修 II



研修 II

## 2) 未来予想図

### 【防 災 宣 言】

- 一 私たちは、過去の経験、災害に関する知識を深め、多くの人々と共有します
- 一 私たちは、想定にとらわれず、自らの判断で行動します
- 一 私たちは、地域の団結と備えによって、被害を最小限にします

### 【ミライへのメッセージ】

「いつかまた必ずやってくる災害で、命を落とす人を0に近づけたい。」

「シンサイミライ学校交流会」で学んだ成果を、光市の「教育フォーラム」（写真①）や「浅江地区のコミュニティ協議会運営委員会」（写真②）で発表する機会を得た。そして、交流・体験学習のまとめを「防災宣言」とし、また、被災地で誓った想いを「ミライへのメッセージ」として提言することができた。

大人の意識を変える最も早い方法の一つが、子どもが率先して行動することであるということ。「シンサイミライ学校交流会」でも学んだ。そこで、「浅江地区のコミュニティ協議会運営委員会」で、東日本大震災で犠牲になった子どもたちが天国で寂しくないよう、被災地の宮城県東松島の上空に青い鯉のぼりを掲げる「青い鯉のぼりプロジェクト」に寄贈する、青い鯉のぼりの提供を地域に呼びかけた。早速、「浅江地区のコミュニティ協議会」が全面的に協力・支援していただくことになった。このような活動を通して、地域の防災意識を高める一助となるとともに、生徒には地域で団結することの価値を再発見してほしいと思う。



写真①



写真②



生徒が作成した配布用のチラシ

## 3 成果と今後に向けて

防災について基礎的な事項を学習した今、「ボク・ワタシミライ第2章」として、自分の未来はもちろん、「助ける立場」として自分が周囲に貢献できること、未来のまちづくりや地域ネットワーク等について、理想とする未来予想図を生徒と一緒に考えることとなった。その未来予想図には、きっと「災害に立ち向かう力」があり、「災害を乗り越える力」があると思われる。「自助、共助、公助」の精神を学んだ生徒が、未来に向けての課題やその解決策などを総合的に分析し、自らの現状を見つめなおす活動を展開したい。そして、自分のもっている生きぬく力を発見させたい。

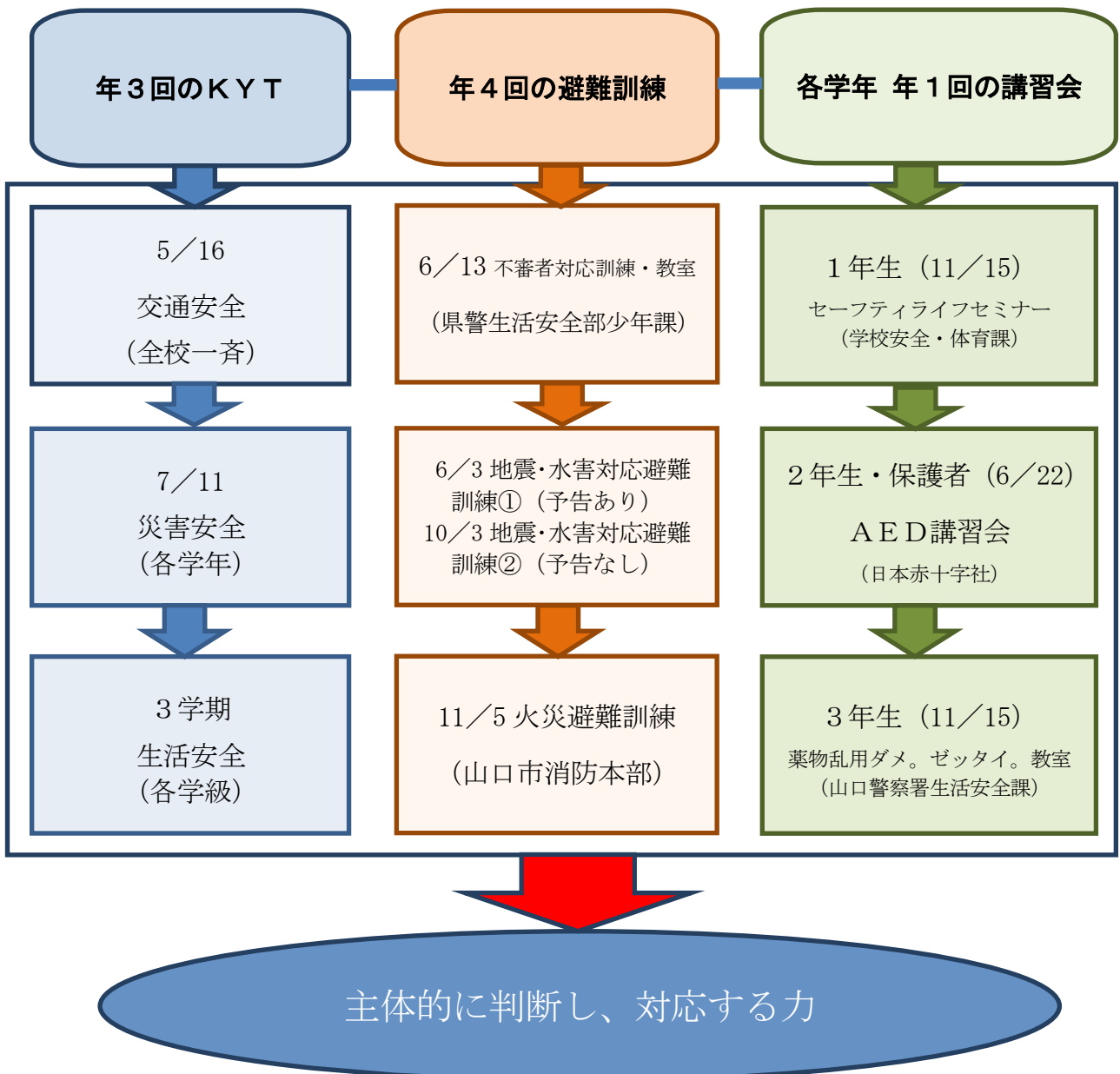
取組名	生徒会を中心とした全校生徒の活動		
特徴	あいさつ運動、自転車置き場の整理整頓と施錠呼びかけ、交通ルール・マナーの徹底		
学校名	平生町立平生中学校	日時	年間を通じて
<p>1 ねらい</p> <p>(1) あいさつ運動【礼を正す】 生徒主体であいさつ運動を展開することで、礼を正す意識の高揚を図る。</p> <p>(2) 自転車置き場の整理整頓と施錠の呼びかけ【場を清める】 自転車置き場の整理整頓を心掛けさせ、自転車施錠の習慣を付けることで、場を清める意識付けを図る。</p> <p>(3) 交通ルール・マナーの徹底 自分の身は自分で守るため、登下校時の交通安全・ルールの順守・マナーを徹底させる。</p> <p>2 概要</p> <p>(1) あいさつ運動 花の水やりを兼ねて当番制で、1クラスずつ正門前で登校する生徒にあいさつ運動を実施している。気持ちのいいあいさつから一日が始まるきっかけづくりばかりでなく、通行する車両ドライバーに対してもスピードダウンや安全運転の意識高揚につながっている。</p> <p>(2) 自転車置き場の整理整頓と施錠の呼びかけ 生徒会の取組として、自転車通学生に対して施錠を徹底させる活動を行っている。各学級に担当生徒がいて、定期的に施錠してあるか点検し、未施錠の生徒に注意を促す活動をしている。</p> <p>(3) 交通ルール・マナーの徹底 自分の身は自分で守るため、登下校時の交通安全・ルールの順守・マナーについて、全校集会はもとより、短学活で教職員が指導している。下校時には教職員が正門で交通指導を行っている。</p> <p>3 成果と今後に向けて</p> <p>(1) あいさつ運動 あいさつのよくできる学校になっている。生徒と一緒に教職員もあいさつ運動に参加しているため、生徒の登校の様子や近隣通学路の状況、通行する車両へのスピードダウンにつながっている。長年続いている活動なので、意義をしっかりと生徒に意識させて続行していきたい。</p> <p>(2) 自転車置き場の整理整頓と施錠の呼びかけ 施錠の意識が高まり、ほとんどの生徒が施錠している。ヘルメットも前かごに伏せて入れてあり、統一感が感じられる。自転車も整然と並べられている。今後も続けていきたい。</p> <p>(3) 交通ルール・マナーの徹底 登下校時の交通違反は減っているが、土曜日曜での部活動への行き帰りがルーズになりがちである。さらに指導を行い、マナーアップにつなげたい。</p>			

取組名	大殿中KYT		
特徴	これまでの本校の防犯・防災学習等を一つにまとめて、生徒及び教職員が「大殿中KYT」として系統的に学び、自分の命は自分で守る意識を高める。		
学校名	山口市立大殿中学校	日時	平成25年度

## 1 ねらい

- 「大殿中KYT」を本校の危険予測学習や訓練の総称として意識付ける。
- 生徒が危険回避のために主体的に判断し、対応する力を身に付ける。
- 事件や事故、災害が起こった時を想定して、教職員が生徒の安全確保を最優先にした対応を行う。

## 2 概要





### ☆年3回のKYT〔KYT（交通安全）の授業〕



(授業者の話を聞く様子)



(話し合いの様子)



(班の意見を発表する様子)

### ☆年4回の避難訓練（不審者対応訓練・教室）



(教員が刺股で不審者へ対応)



(教室を閉めてイスを持って防備)



(講師による護身術の指導)

### ☆年3回の講習会



(セーフティライフセミナー)



(AED講習会)



(薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室)

## 3 成果と今後に向けて

本校では、これまで防犯や防災、健康に関する学習を毎年行ってきた。生徒は、それぞれの学習が大切なことはわかっているが、「自分の身を守るため」の学習として関連付けて考えられていなかった現状があった。

そこで、今年度は、すべての活動を「大殿中KYT」としてまとめることで、教職員の危機管理意識とともに、生徒の安全に対する意識や危険回避の意識の高揚を図った。

今後は、生徒会の企画による「大殿中KYT」を計画したり、訓練の実施方法等を改善したりする中で、さらに主体的に判断し、対応できる力を育てていきたい。

取組名	実践的避難訓練		
特徴	1回目・・・生徒がバリケードを作る 2回目・・・生徒にケガ人が出た設定		
学校名	山口市立阿知須中学校	日時	1回目：平成25年7月 5日（金） 2回目：平成25年9月27日（金）

## 1 ねらい

既に繰り返し言われていることだが、東日本大震災の教訓により、いかに準備をするかが生死を分ける場合がある。避難訓練も、形式的に行うだけでなく、いかにアクシデントに対応し自分で判断できる生徒を育てるか、そして、それができる教職員集団を作るかがポイントである。そのため、本校の立地条件に合わせた設定で、毎回パターンを変化させながら、避難訓練を行っている。また、今後も段階を踏みながら、より実践的なものにしていく予定である。

## 2 概要

1回目（防犯訓練）・・・本校の立地として、公道が校地内を縦断しているため、校門には門扉がなく、敷地内への侵入経路が数カ所ある。また、最大の問題は、玄関よりも生徒昇降口が校門から近く、しかも各教室には内鍵がないということである。そこで、生活安全サポーターの方に不審者を演じてもらうと同時に、暗号によって生徒に不審者の進入を知らせ、避難より先にバリケードを築いて教室進入を防ぐこととした。不審者が一旦校長室に入ったところで、体育館に静かに入場、内鍵をかけた。生活安全サポーターにお話しいただき、終会。

2回目（火災訓練）・・・あらかじめ、各学級に（今回は）もともと足を負傷している生徒が一人ずついることを設定。足を負傷している友人とどう避難するのかを生徒に考えさせた。訓練通告、人員確認のやり方を含めて防災アドバイザーに見ていただいた。アドバイザーには、生徒にお話しいただくとともに、事後には管理職に対しても指導をいただいた。

## 3 成果と今後に向けて

前年までと違う形で、むしろ教職員集団にとまどいがあったが、緊張感をもって訓練をすることができたと思う。バリケード（2段までしか組ませていないが）や負傷者設定というと、遊び事を予想して疑問に思う教職員もいるが、実際には、たいていの生徒はそれなりに真摯に受け止めて訓練に参加するし、そうでない生徒には、今後も危機対応や命を守る指導を行うきっかけづくりになればいいのではないかと考える。

防犯訓練をきっかけにして、教職員の意識が高まり、生徒棟については、常に扉を閉めるようになったことも、収穫だったと思う。今後は、時間を決めずに行う方式や、避難通路に通行不可状況がある設定、事前に生徒を数人残して人員点呼を迷わせ教職員に捜索してもらう設定、高潮に対しての避難、など様々な方式設定を避難訓練に取り入れたいと思う。また、KYT学習等により、危険予測・危険回避の能力も育てていきたい。

それに付け加えて、防災教育を「命を尊重する教育、絆を感じる教育」に繋げるべく、校内研修を深めていきたい。

取組名	親子（全校）で作成する「安全マップ」		
特徴	学校保健安全委員会を開催し、全校の親子で「安全マップ」を作成する。		
学校名	萩市立むつみ中学校	日時	平成25年6月23日（日）

### 1 ねらい

全校生徒（27名）と参加保護者（29名）、教職員（11名）で通学路を中心とした「むつみ中の安全マップ」を作成することで、危機管理意識を向上させる。

### 2 概要

- ・ふれあい参観日（日曜日）に、体育館で学校保健安全委員会を開催した。
- ・全校生徒と保護者（出席率 100%）、教職員で、地区別に集まりワークショップ型の検討会を実施した。
  - ① 各自の通学路をチェックする。
  - ② 親子で危険な場所や注意が必要な場所を検討し、付箋紙に記入する。
  - ③ 地区ごとに生徒が危険箇所を発表して、確認する。
  - ④ 子ども110番の家を確認する。
  - ⑤ 通学路以外の危険箇所についても意見を求め、記録する。
  - ⑥ 各地区の意見を取りまとめて、「むつみ中安全マップ」を完成する。
  - ⑦ 後日、PCで地図にとりまとめて、玄関に拡大掲示し、マップを地域に配布する。

## むつみ中「安全マップ」



### 3 成果と今後に向けて

- ・生徒だけでなく、保護者にも通学路及び周辺の危険な場所を意識してもらった良い機会となった。保護者の参加率も100%であり、内容も好評であった。
- ・地区ごとの話し合いで情報交換でき、生徒に発表させたこともよかった。
- ・来年度以降も毎年見直しをしていきたい。
- ・地域の方の意見もお伺いするとともに、小学校の安全マップとも連動させていきたい。
- ・行政とも相談し、市が作成しているハザードマップの情報も必要に応じて記載していきたい。また、学校のホームページにも掲載したい。



取組名	保・小・中合同防災訓練・防災学習（大雨洪水・土砂災害対応）		
特徴	岩国市本郷地区の保育園、小学校、中学校、地域の関係機関が連携して、防災訓練や防災学習を実施している。		
学校名	岩国市立本郷小学校 岩国市立本郷中学校	日時	平成25年6月12日（水）

## 1 ねらい

- (1) 大雨洪水・土砂災害に備えて、隣接する保育園、小学校、中学校が合同で防災訓練・防災学習を実施することで、園児、児童、生徒や教職員の危機対応能力を高める。
- (2) 防災学習を実施することを通して、市の防災担当部局と十分な連携を図り、園や学校の防災体制を確立する。

## 2 概要

- (1) 訓練の想定と行動基準…あらかじめ、各園・校、総合支所関係者と事前打ち合わせ。

**岩国市本郷町地区に大雨洪水警報が発令される。土砂災害の危険性あり。**

岩国市避難勧告発令基準第1段階………保育園避難開始

山口県土砂災害降雨危険度レベル3………小中学校避難の必要性あり

↓  
園長・小中校長の協議後、本郷総合支所地域振興課消防防災係へ連絡

↓  
児童生徒への避難指令 保育園は直ちに公民館へ避難開始

第1次避難：本郷中学校グラウンド

第2次避難：本郷公民館

- (2) 避難訓練

- ①第1次避難 事前に打ち合わせた行動基準に基づく
  - ・避難指令1…「本郷地区に大雨洪水警報発令、生徒は安全が確認されるまで教室待機」
  - ・避難指令2…「児童生徒は安全を確保しながら、第1次場所へ避難」

第1次避難場所の本郷中学校グラウンドへ小中の児童生徒が避難

- ②第2次避難 総合支所消防防災係と連携して避難

- ・避難経路にある本郷川の水位の安全確認
- ・中学生が児童を見守る先導役となり、小学生を間に入れて避難

↓※危険箇所には、あらかじめ先導教職員と消防防災係が立つ

第2次避難場所である本郷公民館へ到着  
ほんごう保育園児はすでに避難完了、待機

- ③地区別帰宅班の確認

中学生のリーダーを中心に保・小・中の園児児童生徒が地区別に分かれて並び、家庭へ帰宅する場合のルートを確認する。（※実際には保護者の迎えとなる。また、帰宅困難であれば、避難場所待機となる。保護者引き渡しカード準備。）

- (3) 防災学習

総合支所の消防防災係が、避難の状況を講評するとともに、緊急避難するとき準備するものや避難食等防災用具について講話をする。

## 3 成果と今後に向けて

- (1) 生徒の感想から

「小学生と列を乱さず、しっかりと行動できた。普段から安全を心がけたい。」「小学生をリードして避難した。自分の命を守ることが一番大事だが、家族の命や他の人の命も守れるようにしたい。」というように、防災訓練・学習を通して、日常の防災への意識の高まりや地区のリーダーとしての自覚が生まれた。

- (2) 今後に向けて

防災訓練・学習を通して、保・小・中連携や地域連携が進んだ。高齢化が進む本郷地区では、中学生が防災のリーダーとして地域の安全を守るという意識を一層高めていきたい。



第1次避難から第2次避難へ



中学生が園児や児童のお世話をする



防災グッズについての説明

取組名	コミュニティ・スクールを活用した防災意識の高揚		
特徴	平成17年に発生した「美川水害」の教訓から、美川小中学校合同での「災害時避難訓練」や「地震・火災避難訓練」等を実施する。 学校運営協議会委員も協力してもらう「安全マップ」の作成により、児童生徒の防災意識の高揚を図る。		
学校名	岩国市立美川小学校 岩国市立美川中学校	日時	平成25年6月6日（木）他

## 1 わらい

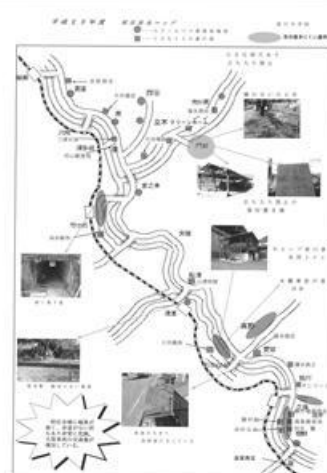
### (1) 美川小中合同災害避難訓練

- ① 災害時の非常事態を想定して、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるように訓練を行うことにより、不測の事態発生に備える。
- ② 美川小中学校が連携して、教職員の安全確保に対する意識を高めるとともに、不測の事態発生時の対応について確認する。
- ③ 地域等との連携による災害避難訓練（スクールバス下校等）も実施し、児童生徒のさらなる危機回避能力の向上を図る。また、各避難訓練等終了後、児童生徒及び教職員に避難訓練の振り返りをさせ、危機回避に対する意識の定着を図る。



### (2) 「安全マップ」の作成について

- ① 児童生徒はもちろん、保護者・教職員・学校運営協議会委員が協力して「安全マップ」を作成することで、児童生徒や教職員の危機回避能力や危険に対する意識の向上を図る。また、児童生徒の安全を確保するための環境整備も行う。
- ② 「安全マップ」完成後に、各家庭はもちろん美川地区にも配布し、児童生徒や保護者及び地域住民の危機回避意識の高揚を図る。



## 2 概要

### (1) 美川小中合同防災訓練

- ① 美川小中合同災害避難訓練
  - (ア) 美川総合支所から避難勧告が美川小中学校に発令されたと想定し、両学校で緊急避難放送をする。
  - (イ) 美川小中体育館に児童生徒・教職員が避難する。
  - (ウ) スクールバス・徒歩・保護者迎いの3グループに別れ、それぞれで教職員が指導し、下校させる（美川小中学校災害対策マニュアルに準じて指導する。）。保護者迎えグループは、協力可能な保護者のみとする。
- ② 美川小中学校合同地震火災避難訓練
  - (ア) 地震発生の緊急放送を、各学校で流す。その後火災が発生したという想定で火災避難訓練を実施する。
  - (イ) 児童生徒がグラウンドに同時に避難し、集合する。（各学校で点呼及び健康状態を把握する。）
  - (ウ) 両校長及び消防署員が講評する。
  - (エ) 水消火器を使った消火訓練（グラウンド）や煙霧体験（中学校教室）を行い、小中学生及び教職員が体験する。



(2) 「安全マップ」の作成

- ① 児童生徒及び保護者や学校運営協議会委員や教職員で校区内を巡回し、危険箇所等をまとめて「安全マップ」を作成する。
- ② 完成した「安全マップ」を児童生徒及び保護者に配布し、危険箇所等の認識や危機回避能力を高めさせる。

### 3 成果と今後に向けて

(1) 成果

- ① 小中学校で各種避難訓練等を行うことで、美川小中学校の児童生徒を、美川小中学校の教職員全員で育てていこうという意識が教職員に高まっている。また、児童生徒も小中学校教職員の区別なく接することができ、中1ギャップ等の解消にもつながっている。
- ② 「美川小中合同災害避難訓練」などを実施する際、事前に保護者に案内を配布することで、保護者の防災意識を高めることができた。
- ③ 美川小中学校の教職員全体で取り組むことで、情報の共有や共通理解が図れ、組織的に取り組むことができた。さらには、このような事を教職員が経験することで、お互いの学校での教職員の組織力が向上した。
- ④ 美川小中学校の児童生徒合同で活動することで、中学生が小学生の世話をしたり、指導したりすることとなり、児童生徒の人間関係が深まり、中学生のリーダー性も高まっている。
- ⑤ 「安全マップ」作成の協力を学校運営協議会委員や保護者に依頼することで、美川地区全体で児童生徒を見守ろうという意識が高まり、それぞれの危機回避能力が高まりつつある。



(2) 課題

- ① 訓練の方法やパターンが例年同じであるため、児童生徒や教職員に緊迫感が不足しているため、予定以外の日時に突発的に行ったり、実施回数の頻度を高めたりすることで、より緊迫感等が生まれ、万が一災害があった時には災害が最小限に抑えられる。
- ② コミュニティ・スクールの活用を検討し、災害等の体験話をしていただくなど人材活用をすると、今以上の効果が期待できる。
- ③ 児童生徒・教職員などの各訓練実施後の振り返りや感想を次年度に十分生かされていないので、生かす工夫が必要である。